針尾城の城主はどんな人？

針尾伊賀守の人物像

九じろう　針尾城の城主はどんな人物だったの？

キューちゃん　針尾城は針尾氏が代々本拠とした城なんだ。平戸藩に残る記録や系図などによると、16世紀の戦国時代（室町時代後期）の針尾氏の系譜は、針尾半左衛門周防守⇩針尾伊賀守⇩針尾三郎左衛門となっている。

　だけど、これより以前の14世紀の記録には、針尾兵衛太郎入道覚賓や針尾勘解由太夫藤原家盛などの人物名があり、針尾城の城主だった可能性があるよ。

倭寇図巻（平川定美氏蔵・部分）

　針尾氏の中で一番名が知られているのは伊賀守で、永禄6（1563）年の横瀬浦襲撃事件に登場するんだ。

　伊賀守は、大村領内にあった横瀬浦港の監督をする奉行をしていたんだけど、キリシタン大名で大村領主の大村純忠に叛いて、武雄領主の後藤貴明と結託し、横瀬浦にいたイエズス会の宣教師たちと純忠の暗殺を計画した。計画そのものは失敗したけれど、横瀬浦は焼け落ちたんだ。

　針尾氏は、松浦地方の浦々にいた松浦党と同じように、経済的基盤を漁業と海外との交易においていたようだね。彼らは、時に海賊行為を働いて、倭寇と恐れられていたんだ。

針尾氏と佐志方氏

九じろう　針尾伊賀守は針尾島全体を治めていたのかな？

キューちゃん　針尾島の東部は、先住民の佐志方氏の勢力下にあったんだ。針尾氏と佐志方氏とは長い間争いが続き、針尾氏が全島を治めていた時期もあったけど、元亀3（1572）年に伊賀守の子・針尾三郎左衛門が平戸松浦氏に滅ぼされ、針尾島での勢力を失ってしまう。

　大村氏から後藤氏、後藤・平戸松浦連合、再び大村氏と、次々と提携相手を変える針尾氏は節度がないように見えるけど、戦国時代の土豪たちは、戦国大名たちの勢力のバランスを利用しながら、なんとか自分の勢力を保とうとしたんだね。

針尾島勢力変化図（赤色は針尾氏の勢力範囲）

横瀬浦襲撃事件以前は、針尾島の西部は針尾氏、東部は佐志方氏が勢力を持っていた

横瀬浦襲撃事件のころ、針尾氏は、平戸方の佐志方氏を針尾島から追い出す

針尾氏は、佐志方城で平戸松浦氏に滅ぼされ、針尾島は平戸領に

出土品あれこれ～数百年の眠りから覚めた品々

対馬産若田石で出来た硯（写真左上）、15～16世紀の中国・江南三彩（写真左下）、飾り金具、燈明、中国・しょう州窯の小皿（写真中列・上から）、唐銭や宋銭などの中国の銭貨（写真右列）

16世紀ころの中国・景徳鎮窯の六角脚付瓶。トルコ、イタリアに次ぐ世界で3例目。ポルトガル貿易によるものと思われる

15～16世紀ころの中国・龍泉窯の青磁皿。5枚重ねで発見された中の1枚

16世紀後半ころの中国・景徳鎮窯染付碗

ポルトガル船はどうして横瀬浦に来たの？

平戸から横瀬、長崎へ

九じろう　ポルトガル船は、どうしてはるばる海を渡って日本までやって来たのかなあ？

キューちゃん　15～16世紀ごろのヨーロッパは大航海時代と言って、海外との貿易のため海へと乗り出した時代なんだ。バスコ・ダ・ガマのインド航路発見や、マゼランの世界周航のころだね。

　海外貿易の目的は、インドの香辛料と黄金を手に入れることだった。日本との貿易の際は中国の生糸と日本の銀の中継貿易をした。これによって多くの利益を得たんだ。

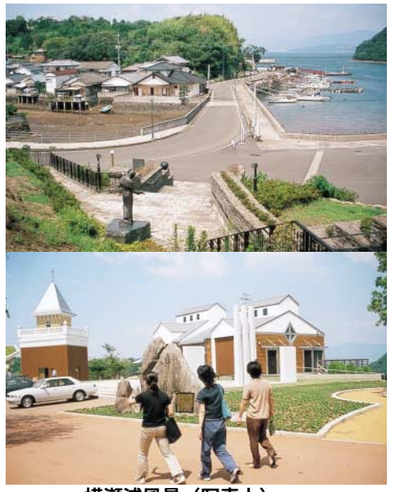
　もう一つはキリスト教の布教だね。

紙本著色南蛮人来朝図之屏風
（長崎県所蔵・部分）

　当時ヨーロッパでは新教が起きてきた時期で、カトリックはそれに対抗して改革が進み、その過程でイエズス会ができたんだ。

横瀬浦の湾口に浮かぶ八ノ子島

　天文19（1550）年ポルトガルの貿易船が最初に入港したのは平戸だった。平戸の領主・松浦隆信はポルトガル貿易によって利益を得、戦国大名の地位を確かなものにしたけど、キリスト教の布教をめぐって平戸領内の仏教徒や家臣団との間に摩擦が生じ、ポルトガル船は平戸を去り、横瀬浦に移ったんだ。


横瀬浦風景（写真上）
横瀬浦史跡公園（写真下）

ルイス・フロイス像
（横瀬浦史跡公園）

九じろう　ポルトガル船は横瀬浦にいつごろ来たの？

キューちゃん　横瀬浦を貿易港に決めたのは、イエズス会の日本布教長トルレス神父だよ。トルレスの命を受けた宣教師アルメイダは、調査の結果、横瀬浦が良港と確信し、大村領主純忠を訪ねた。純忠は、開港の条件として港の周囲2レグア（約11㎞）の土地を農民と共に譲与することなどを約束したんだ。

　永禄5（1562）年6月、ポルトガル船が横瀬浦に入港し、商人やキリシタンたちが集まり、町はにぎわったんだ。

　ルイス・フロイスが横瀬浦に着いたのは、横瀬浦襲撃事件の約一カ月前のことだった。

　平戸に始まったポルトガル貿易の港は、横瀬浦襲撃事件後、横瀬浦から福田（現長崎市）、長崎へと移っていく。そして、長崎は鎖国時代のわが国唯一の貿易港となったんだ。

戦国時代 針尾島関連年表

天文18（1549）年
トルレス神父が、イエズス会の創設者フランシスコ・ザビエルと共に来日し、ザビエルが去った後、日本布教長となる

天文19（1550）年
ポルトガルの貿易船が平戸に入港する

永禄5（1562）年
7月、ポルトガル船が横瀬浦に入港。この後1年余りの間に、ポルトガル船3隻、中国のジャンク船2隻が横瀬浦に入港

永禄6（1563）年
●7月、ルイス・フロイスが横瀬浦に上陸
●8月、針尾伊賀守などによる横瀬浦襲撃事件がぼっ発。横瀬浦は焼け落ちてしまう

永禄12（1569）年
ルイス・フロイスが京都の二条城で織田信長と会見

元亀3（1572）年
江上の佐志方城にいた針尾三郎左衛門（伊賀守の子）が、平戸松浦氏によって滅ぼされ、針尾島は平戸松浦領となる